



夕焼けの愛した海 30×13×65.5



溢れる愛 34×33×48.5



流れる愛の沢 43×16×32.5

春の宝物 14.8×8.5×46.1



愛の光 20×65×30



愛と安らぎ 15×15×50



1980年代よりフランスでガラス工芸作品の制作を開始。1991年にはイタリア、ムラーノのガラス芸術の巨匠ジャン・カルロ・シニョレット及びフランソワーズ・コルテス工房の協力によりヴェネツィアングラスを用いた作品を発表。

芸術家は魔術師であり、限りなく多様な色彩を自由に組み合わせることが出来る。自然は、日々折々異なった色を帯びながら、刻一刻変化する色彩の調和、その語りかける言葉や表現など、作品の成功のために欠かすことのできない要素のように思える。その時の気分や感情によって、最も落ち着いた柔らかな色を選ぶかあるいは最も生き生きとした鮮やかな色彩を使うか、いずれにするかには、本当に胸を躍らせるものがある。(中略)

絵を観る人々がイメージを通して自身の夢を感じる事が出来るように、穏やかで冷静な雰囲気を保つよう心がけている。それによって、無意識の深淵から思い出が噴出し、過去の感動が観る人自身のイメージとなるだろう。(画集「自然と愛」より抜粋) マークエステル



PROFILE マークエステル・スキャルシャフィキ



1943 パリ生まれ。その後、南仏コートダジュールのエズで両親が経営する「バナノレイホテル」に移り住む。



1950 フランスのホテル協会会長である父が経営する「カップエステルホテル」に移住し、7歳から50年過ごす。ホテルには世界の著名人が訪れ、若き日の彼の感性を磨いた。近くに住んでいたシャガールは「君は絵描きに向いている。是非画家になつたらいい」と勧めた。



1960 パリ大学で経済学部で経済学学士号を取得後、ボザール美術学校とカモンド美術館で学ぶ。



1968 ラオス・フランス大使館勤務。翌年、モーリス・シューマン外務大臣の秘書となる。



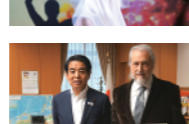
1970 大阪万博に訪れた際、清水寺の水墨画の滲みの美しさに感銘を受け、画家に転身。岡本太郎氏との交流が始まる。



1981 来日を希望されていたグレース王妃を神戸ポートピア博覧会に案内する。チャーリー・チャップリン、カラヤン、ビートルズ、ケネディ家、ボンビドー家、デビッド・ロックフェラー等と交流を深める。



1987 アフリカ及び、アジアの子供達の支援を始める。現在、トーゴ、ブルキナファソ等で4つの学校を運営。



1989 盛田会長の好意により銀座ソニービル全館を使用し個展開催。東京渋谷の東急文化村のオープニング企画として個展を開催。

1996 伊勢神宮、出羽三山神社より作品奉納の依頼を受けたことを機に全国の神社への奉納を決意。

2006 「日本神話 by MARCESTEL」を七ヶ国語で出版。翌年、神道文化会より文化奨励賞を受賞。

2008 上野の森美術館にて個展。北京の坦博美術館に常設スペースオープン。

2009 南仏 RETIF 美術館オープン企画に出演。

2010 上海万博にアートディレクターとして参画。

2011 三浦美術館(松山)にて個展。作品を舞台芸術化したコンサート「神代音絵巻 ～むすび～」を開催。(サンポートホール高松)

2012 作品を舞台芸術化したコンサート「神代音絵巻 ～えひめ～」を開催(ひめぎんホール)

2013 出雲大社「平成の大遷宮」奉祝奉納公演「絵と音と舞のコンサート～出雲に捧ぐ～」に作品映像提供。(出雲大社東神苑)

2014 文部科学大臣より「文化関係者文部科学大臣表彰」を受賞。

2015 九州国立博物館、横浜市大倉山記念館、さいたま市文化センター、クリエート浜松、あわぎんホールにて個展。2010年より銀座アートホールにて毎年個展。

パリ、ニューヨーク、ロンドン、ヨハネスブルク、シンガポール、北京、上海等、国内外にて個展多数。サロン・ドートンヌアジア代表。

会場／大東市立総合文化センター 市民ギャラリー
大阪府大東市新町 13-30
TEL. 072-873-0030

JR 学研都市線「住道駅」下車徒歩8～10分(約500m)
駐車場／駐車可能台数 105台
最初の1時間無料、以降30分毎に¥100
当日最大料金 ¥1,000

主催／株式会社H & T E-mail: info@h-a-t.jp
東京都世田谷区代田 6-6-9-2B
TEL. 03-6407-4343



表紙絵／天国のブーケ 油彩 40F



2016 4/21 [木] ▶ 27 [水] 大東市立総合文化センター 市民ギャラリー
10:30~19:00 大阪府大東市新町13-30

マークエステル展 2016 4/21 (木) - 27 (水)
10:30~19:00 作家来場



無我夢中で踊る天宇受売命 油彩 122×122

日本人が忘れかけていた日本神話『古事記』の世界を美しい色彩と神秘的な滲みで今に甦らせるマークエステル。

彼の創造の源は、日本に対する深い愛情、そして、神に対する真摯な崇敬の念でありましょう。氏が絵を描く時、そこには作為も計算もなく、幼子のように天に身を委ね自由に色と戯れるのです。その純粋さが観る者の心を解放し、惹きつけて止みません。

今年73歳を迎えたマークエステルですが、制作への情熱は衰えることなく、神社への作品奉納は、現在、全国159社を数えます。

今企画では、油彩、ガラス工芸品、ブロンズ、版画等の新旧代表作約150点を一堂に展示いたします。是非、この機会に、ご高覧ください。

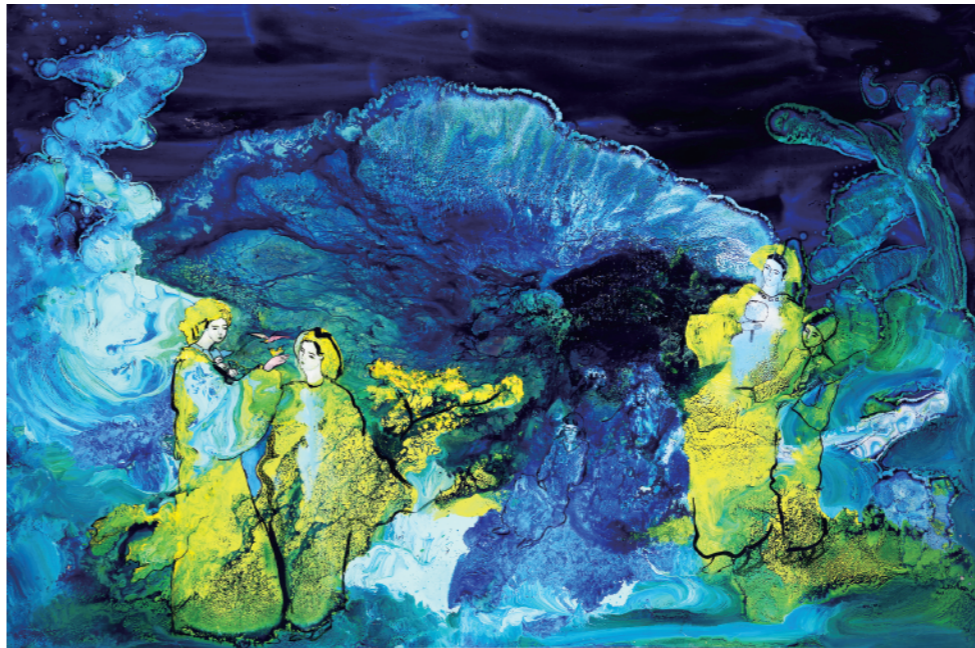
株式会社H & T 代表 濱崎 佐知子



太陽からの花 油彩 60F



白鳥となって飛び立つ倭建命の御魂 油彩 50F



春日大社奉納作品
天照大御神を取り巻く天つ神たち 手彩入シクレー版画 80P



愛の旅立ち 油彩 10F

空からの花 油彩 15F



自然と人間の持つ神秘性がマークエステルの心を捉えてはなさない。彼の表現は無限に向かって指向する生命の例証であり、深遠で本質的な世界への展望である。私にとって重要なことは、ナショナリズムや国境を超越して芸術が世界に向かって、宇宙に向かって自由に伸びることである。(中略)
マークエステルが好む素材は、自然に流動する液体のように豊かで、貴重で、まるで祭礼の風のように現れ、よどみなく流れ出る。マークエステルは人間誰しも心の底にある感情、愛や喜び、そして悲しみや郷愁を描写しようと努める。私にとって更に重要なことは、子供の絵に見られるような魔法の魅力を持ち合わせることである。(後略) 「生命の実在」
岡本太郎



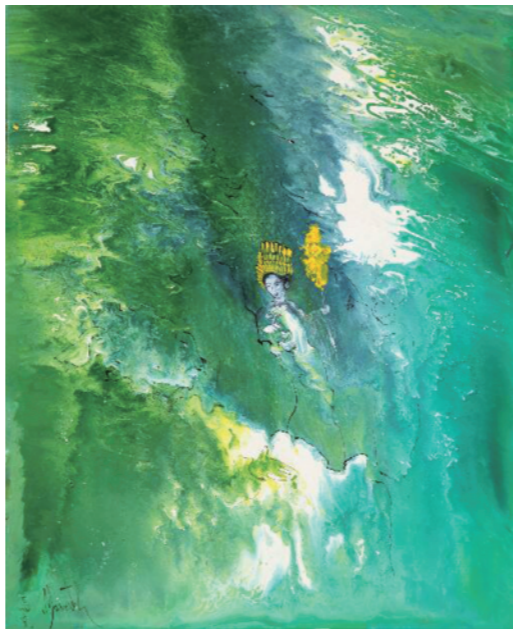
岡本太郎氏とは誕生日が同じで16回共に祝った。

天岩戸を開く手力男神 油彩 12F

マークエステル 何と凄い男だろう。彼は、「日本神話」を一冊の本にしてしまった。日本人が忘れかけた、いや、忘れてしまっていた日本神話をだ。外国人によって日本を再認識させられる事は多々あるが、例えば、相撲の世界も、今や、外国人によって国技の楽しさを見せられていると言っても決して過言ではない。マークが持っている、絵画の世界と日本を愛する心のコラボレーションによって又一つ外国人に日本を教える事になった。愛をこめて
堺 正章



2003年、日本神話の個展のオープニングパーティーにて



天河大辨財天社奉納作品
天宇受売命の平和の愛の踊り 手彩入シクレー版画 44.8×38



伊勢神宮奉納作品と同型
天照大御神 ブロンズ 30×30×50



マークエステルが1950年から2000年まで過ごした「カップエステル」はイタリア語で「星の岬」を意味する。ニースとモンテカルロの間に位置し、壮大な庭園とそれに続く深い、紺碧の地中海が混ざり合う格別に美しい景観で、訪れる世界の要人達を魅了した。「カップエステルホテル」は彼の芸術にインスピレーションを与える密かな源泉であり、将来芸術家になる導きとなった。

ベニスの愛の鳥たち 油彩 10F

